

---

# 発展版殺人鬼

成海政宗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

発展版殺人鬼

### 【Nコード】

N8525N

### 【作者名】

成海政宗

### 【あらすじ】

世紀の殺人鬼ケム・ザオレンが処刑されてから3年・・・  
また新たに殺人鬼が産声をあげた・・・  
そのなも「アビリティキラーズ」  
そんな彼らを主人公にしたSF殺人小説

## エピソード？

### プロローグ

21世紀末、世界は目覚ましい発展をとげていた・・・。

発展途上国、核実験問題、世界的不況などの問題も解決していた。誰もがうらやむような平和な世界だった・・・。

しかし、ある男達によって徐々にこの平和な世界は奪われようとしていた・・・。

彼らはイタリアを中心にして行動しているらしい。しかも、マフィアでさえ避ける強大な勢力を持っているらしい。

彼らはイタリアのみならず世界的に恐れられている殺人鬼として世界政府は対応している。

彼らは本名を明かさないらしい。

お互いをコードネームで呼び合っている。

### 第一話    アビリティヒューマン

「速報が入りました！！8：16ごろイタリアのローマで男性2人女性1人が何者かによって殺されたようです。外傷はまったく無く、薬物も体内から混入された跡もないため、警察はアビリティキラーズの犯行とみて捜査を進めています。」世界中にこのニュースが広まった。

21世紀最大の殺人鬼ケム・ザオレンジャーが処刑されてからわずか3年後の出来事だった。

新聞ではこの事件を「殺人鬼生き返る！？」と記されている。

世間はアビリティキラーズの話題で騒がれていた。

なぜなら彼らの殺し方は摩訶不思議なもので、普通の人間では考え

られない能力を持っていたからだ。

一人は空間を引き裂いてないものにするアビリティ。彼はこのアビリティ4のリーダー的存在らしい

一人は肉眼に入った空間を消し去るアビリティ。彼は極端に視力が悪い

一人は外から臓器をもぎ取れるアビリティ。彼は世界で指折りのヤブ医者らしい

一人は能力をはじめ謎が多い・・・一つ分かっていることはある彼がやろうと思えば世界は壊せるらしい

彼らに共通するのは空間を操るアビリティが使えることだ。

コードネームは公開されてないがリーダーのコードネームは公開されている。

キラ・ハンドが彼のコードネームだ。

空間を手で引き裂いて殺す殺人鬼キラと人々は解釈しているらしいがそれはあくまでも仮定にすぎない。

彼の本当の恐ろしさはこんなものではないからだ

## 第二話 唯一の被害者

数日後・・・

「リーダー見ろよこれ!!」

「なんだジェラス」

ジェラスという男は自分たちの記事が載っている新聞を差し出した。そこに記されていたには・・・

とんでもない事件の内容と300億超えの指名手配書だった。

「おいおいリーダーの368億はケム・ザオレンの360億を超えてんじゃない!!」

と、チームの中で一番陽気なジェラスという男がこう言ったあとすぐにみんなからリーダーと呼ばれる人物がこう言い出した・・・。

「俺がが368億、ジェラスが305億、ボーンKが322億、シ

エイドが・・・」

みんなの口がふさがらない・・・

新聞にはこう記されていた「あなたのほしい分だけ貰っていってください」

「・・・まあいいジエラス、例の事件はどうだつて？」

「ああやっぱ俺らの犯行だと言ってる」

「ちよつと殺つてくる・・・」

ボーンKという男が外を出た・・・

「リーダーいいんですかい？一人で行かせてえ」

ジエラスが心配そうに聞いてみた。

「・・・」

微笑みを隠して席を後にした・・・

「俺もいくか！！」

玄関に行き靴をはこうとした時ジエラスはふと思った。

「なあお前は外出ないか？たまにはいいぜえ風に吹かれ人間を殺す事も」

シエイドはジエラスに質問されても聞く耳をもたない。

シエイドの首が前に動いた。

「さつさで行けて事かな？まったく・・・」

ジエラスはシエイドを残して出て行った・・・

何日か経って全員がそろそろ久しぶりの殺人しとく

「全員いるか？」

「いないっすよお」

と、気軽に答えた。

「まあいつもの事だ・・・3人で殺ろう」

いつも1人いないが彼らには普通の事らしい・・・

「作戦の説明をする。パーティーが終わって人間らがほつとしてい隙に殺る」

「で、何時なんだい？」

「5時頃までやるらしい・・・まあヨーロッパの夜は白夜だしな」

「んじゃ俺達は寝てるぜえ」

朝日が昇ってきた頃事件が起きようとしていた。

事件まであと3分

この日大規模なパーティが開かれた。

参加人数は約200人

事件まであと2分

パーティ会場にいる人々は彼らがいるなど気付くわけない。

事件まであと1分

「起きろ・・・起きろ！！」  
「まったく寝起きの悪さは筋金入りだな・・・」

「もうこんな時間か・・・眠いつす」

と、欠伸をするジェラス。

ほかの2人がいった。

「はあこいつやるときややるんだが・・・」

事件まであと30秒

「リーダーもうそろそろじゃねえかい？」

「そうだな・・・」

「俺が右腕を挙げたら一気に行け」

了解と2人はOKサインをだした。

リーダーの右腕が挙がり3人が200人ののに飛びかかり、一気にたたみかけようとしたその時・・・

黒い影が200人を包んで一人残らず真つ二つに引き裂いた・・・  
200人の体から一気に噴きだした生暖かい液体が3人の体をつつんだ。

3人は呆然とその場に立っていた・・・

そこには見覚えのある黒い邪悪な影に包まれた禍々しい雰囲気をただよわせている一人の男がいた。

「私にかかればこんなものすぐ終わるというのに・・・」

それから数分が経った・・・

「やばいよ・・・」息を殺す男がいた・・・  
その男は警察へ連絡した。

連絡をしようと思った時にはもう彼一人だった。

彼はこの事件での唯一の生き残りだった。

つづく

作者 あとがき

こんにちは!!

「発展版殺人鬼の作者嶋田○○○○↑本名の文字数www  
ペンネームは開夢とかいてカイクとよむのですが・・・

それにはある意味が込められています。

開夢↓夢が満開・・・あんま深くないwww

いやあ結構小説書くのも苦労しました・・・

まずこの先・・・全く無いwww

とりあえず2話ずつ発表しようかなあと思ってます。

これからヨロシクお願いします。

次回は僕の自己紹介をあとがきに書かせてもらいたいなあと思って  
ます!!

以上 作者より

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8525n/>

---

発展版殺人鬼

2011年10月7日23時37分発行